H27 年 7 月　新聞記事（山陰中央新報）

松江城ガイドに挑戦

県立大短大ゼミ生10人
10月デビューへ研修

松江城天守最上階の天狗の間で、ちどり娘の上田絵里子さん（右）から案内を受ける県立大短期大学部の学生たち

県立大短期大学部（同市浜乃木7丁目）の学生10人が、松江城のボランティアガイドを目指して研修を重ねている。今春に始めた卒業プロジェクトの一環で、天守の国宝指定答申の吉報が重なり、城の歴史やガイドの心得を学ぶ座学や実地練習にも力が入る。早ければ10月にはデビューする予定だ。

松江の観光をテーマに研究する観光文化ゼミに所属。松江城を観光資源として学生目線から発信しようと、ガイドに挑戦することにした。

6、7月に同短大で4回開催する座学では、松江城山公園の指定管理を務めるNPO法人松江ツーリズム研究会の山本素久理事長（78）から城の歴史や特徴的な造りを学んでいる。夏休みなどを利用して松江城でガイドの練習を積んだ後、NPO法人によるガイドの実地試験を受け、合格を目指す。

30日は松江城で初の現地研修があり、同短大の卒業生で、観光ガイド「ちどり娘」の上田絵里子さん（23）から案内を受け、ガイドの流れを学んだ。上田さんは「知識も重要だけど、話すスピードや時間配分にも気を配って」とアドバイスした。

平成 27 年 7 月 1 日付け・山陰中央新報

島根県立大 再編問題
高校7割「短大部に需要」
四年制化県方針　現場と乖離

島根県が四年制化と同時に一部存続の方針を決めた県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の保育学科（定員50人）に関し、山陰中央新報社が県内の高校全46校（分校を除く）に取材した結果、7割の32校が「短大部への進学に需要がある」と回答した。県は当初、同学科は四年制化のみを進める方針で、5月下旬に県議会の意向などを受け急きょ方針転換した経緯がある。生徒を送り出す現場との乖離が浮き彫りになった形で、四年制化の意義について説明が求められそうだ。

6月下旬に県立35校、私立10校、松江市立1校の全46校の進路指導担当者や校長らに電話で聞き取り、全校が取材に応じた。

2年間で保育士を養成する保育学科について、四年制化と、従来通り短大部とした場合に、どちらに生徒の需要があるかを尋ねたところ、32校が「短大部」と答えた。

理由は複数の学校が「経済的な理由で短大進学を希望する生徒がおり、短大がないと若者の県外流出につながる」「2年間で資格を取り、社会に早く出たい生徒が多い」「四年制化しても県外に出たい生徒が県内に残るとは限らない」とした。

四年制と短大部の両方に需要があると答えたのは12校で、「幼保一体化の流れの中で、四年制化で多くの資格が取れるのは良いことだ」「地元に残りたい生徒の選択肢が増える」などの意見があった。残り2校が「分からない」とし、四年制のみと答えた学校はなかった。

保育学科の四年制化を進める県に対しては「四年制化の意義など納得できる理由がないといけない」などの意見があった。

このほか、今年3月末に卒業した生徒で、県外の四年制大学の保育系の学部・学科への進学状況を聞いたところ、計47人だった。

一方、再編後の短大部保育学科を40人と残し、四年制の人間科学部に定員40人の保育教育学科を設ける方針の県は、四年制化の根拠となる需要に関する調査を行っているが、詳細は明らかにしていない。

平成 27 年 7 月 2 日付け・山陰中央新報

小泉八雲にちなんだ商品開発プランを発表する学生

松江の魅力アップ 学生がアイデア

八雲の「ろくろ首団子」 夜の観光に映像アート

学生が企画した地域活性化策に経費助成する「キラキラドリームプロジェクト」の公開審査会が1日、松江市浜乃木7丁目の県立大短期大学部であった。小泉八雲にちなんだ商品開発や夜の観光振興策など、発表した4グループの企画案はいずれも採用された。

学生の企画力、実践力を育もうと同大学部が2年前から行っており、ドリーム枠（1企画、助成上限30万円）に1グループ、キラキラ枠（2企画、同各10万円）に3グループが応募した。

県立大短大部で審査会

ドリーム枠の学生4人は、小泉八雲をテーマにした商品開発案を発表した。怪談「ろくろ首」を題材に、ろくろ首の顔を描いた串団子や、八雲が自ら作ったといわれる、夏ミカン味のサイダーを「でぃあへるん」と名付けて販売し、松江の魅力アップを図るとした。

キラキラ枠では、松江の夜の観光の目玉として、建物などに映像を投影するプロジェクションマッピングなどの提案があった。

大学や県の関係者ら5人が審査し、全て採用と決めた。ドリーム枠の助成金は20万円とし、キラキラ枠の3企画は各10万円とした。今後、学生は助成金を生かして企画の実現を目指す。

八雲の商品開発を提案したグループの総合文化学科1年、宮廻聖さん（18）は「すごく緊張した。今後、活動を通して松江の魅力を高められればうれしい」と話した。

平成27年7月3付け・山陰中央新報

大立
ンパス
県
根
キャ
島
松江

短大部、四年制に各2学科

県が詳細 再編後の定員柔軟に

島根県は3日、県議会総務委員会(山根成二委員長、9人)で、県立大短期大学部(松江市浜乃木7丁目、松江キャンパス)を四年制化して新設する2学部と、一部存続させる短大部の詳細を公表した。2018年4月の開設を目指す一方、必要に応じて定員を見直し、短大部卒業後に四年制に編入できる制度を設ける考えを示した。

定員は、短大部が保育、総合文化両学科とも各40人で、松江キャンパスに新設する四年制の人間科学部の保育教育学科は40人、地域文化学科は70人。出雲キャンパス(出雲市西林木町)に健康栄養学科を移し、看護学科と統合する四年制の看護栄養学部は、看護学科80人、健康栄養学科40人とする。

委員会では、複数の議員が、高校生らのニーズ調査を継続的に行う必要性を指摘。総務部の田部宏治部長は「将来にわたり定員を固定するとは考えていない」と述べ、再編後は柔軟に検討するとした。

また、保育学科の四年制化の根拠を議員が求めたのに対し、県は、有識者懇談会が全3学科の四年制化の結論を出したことや、松江キャンパスに保育系の四年制の学部ができた場合、進学先の「第1候補になる」または「なり得る」と答えた保育系志望の高校3年生が51%いたことなどを挙げた。

全3学科の四年制化のみで約30億円とする施設整備費は、短大部を存続することで膨らむ見通しを示す一方、学部再編に伴う地方交付税の増額などにより県の負担は減ると説明した。

平成27年7月4日付け・山陰中央新報

原文で読む楽しさ語る

西川氏（熊本大名誉教授）が講演

八雲会設立100年記念

松江

小泉八雲の作品を解説する西川盛雄名誉教授＝松江市西津田6丁目、市総合文化センター

文豪・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、1850～1904年）の顕彰に取り組む八雲会（目野雅之会長）の創立100年を記念した講演会とシンポジウムが4日、松江市西津田6丁目の市総合文化センターであった。講演では、熊本八雲会会長の西川盛雄熊本大名誉教授が、八雲の作品を原文で読む楽しさを語った。

八雲会は松江時代の教え子らが発起人となり、八雲の功績を後世に伝えようと1915年に設立。戦中や戦後の活動休止を経て、65年に地元有志らが活動を復活させた。八雲が松江の後に赴任した熊本でも、独自の八雲会が設立され、松江の会とも交流している。

西川名誉教授は「フラワー・ワイフ（花嫁）」や、助詞と名詞が日本語と同じ並びになるといった、英語にはもともとない八雲独特の表現を指摘。「日本語と英語が混ざったような表現。ハーンならではだ」と評価し、「原文に触れることでハーンの新しい姿が見えてくる」と説いた。

同会場で開かれたシンポジウムでは、八雲会の日野会長や、八雲のひ孫で島根県立大短期大学部の小泉凡教授ら4人がパネリストを務め、会の設立に携わった人々の思いなどを振り返った。

平成27年7月6日付け・山陰中央新報

県立大出雲キャンパス

サテライト設置へ

JR出雲市駅近く 30人学べる広さ

県立大出雲キャンパスのサテライトキャンパスが2階に設置される建物

県立大出雲キャンパス（出雲市西林木町）は10月、JR出雲市駅に近い出雲市駅北町に、公開講座の会場となるサテライトキャンパスを開設する。受講する市民らの利便性向上を図るとともに、中心市街地活性化に貢献する。県立大のサテライトキャンパスは浜田、松江両キャンパスを含めて初めてとなる。

場所は同駅北口から徒歩数分の2階建て商業施設の2階約80平方㍍。2階全体が一つの部屋になっており、約30人が学べる。スタッフが常駐する。

公開講座は市街地から車で20分程度かかる出雲キャンパスを中心に年に約10講座を開いており、2016年度からはサテライトを主会場とする。健康分野が中心だった内容も、国際、経済分野などを加えて20講座程度に拡充。松江、浜田両キャンパスの教授らも講師を務める。出雲キャンパスで学ぶ学生らも会合などに利用できるようにする。

運営費は賃料などを含め年間約200万円で、市や市議会、市内の経済団体などが10月につくる出雲キャンパスの支援組織の支援金を活用する。

出雲キャンパスの山下一也副学長は「より多くの市民に公開講座を利用してもらえるようになると思う。市民と学生の交流の場にもしていきたい」と話した。

平成27年7月10日付け・山陰中央新報

四年制化準備室を設置

島根県立大で看板上掲式

看板を掲げる本田雄一理事長（左）ら＝松江市浜乃木7丁目、島根県立大短期大学部松江キャンパス

島根県立大学は、松江キャンパスの四年制化に伴う準備室を設置した。配置された県職員4人と大学職員1人が、教員の確保や国への申請事務を手掛ける。13日は、松江市浜乃木7丁目の同キャンパスで関係者が看板を掲げ、再編に向けた業務が本格始動した。

県は同キャンパスに四年制の人間科学部を新設し保育教育、地域文化の両学科を設置。保育、総合文化両学科は短大部として存続させる。健康栄養学科は出雲キャンパス（出雲市西林木町）に移し、看護学科と統合して四年制の看護栄養学部とする。いずれも2018年4月の開設を目指している。

準備室は県の方針決定を受けて設置した。この日は、県立大の本田雄一理事長と、同大短期大学部の岸本強副学長らが看板を掲げ、本田理事長が「高度な資格取得に向けたニーズは高まっており、四年制化は悲願だった。しっかりと準備を進めたい」とあいさつした。

会では党員から石破氏を推す声が続出して紛糾し、予定した会長選出は8月に先送りした。

反山口派の県議の1人は総務会での石破氏の発言に触れ「島取の議席を守らないといけないと言ってもらっている」と揶揄。別の1人は「ものが言いにくい関係の立場を知りながら、攻撃材料にしている。（会長選出の駆け引きの）ために、する反対だ」とみて、県連幹部主導の合区反対理動とは距離を置いている。

平成 27 年 7 月 14 日付け・山陰中央新報

来月の舞台へ意気込み

八雲半生描く「日本の面影」

松江 出演者ら制作報告会

「日本の面影」の制作報告会を開いた出演者ら＝松江市北堀町、赤山茶道会館

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、1850～1904年）の半生を描いた舞台「日本の面影」を、島根県内の演劇関係者らが8月30日に松江市殿町の県民会館で上演する。制作報告会が20日、同市内であり、出演者ら約10人が本番に向けて意気込みを語った。

作品は、作家・脚本家の山田太一さん作で、八雲が日本に滞在した十数年の姿がテーマ。英語教師として松江に赴任して出会った小泉セツとの夫婦愛、古き良き日本への愛着、社会が変わりゆく中での苦悩などを描いている。

八雲の没後110年の節目となった昨年、日本演出者協会会員で、フリーの演出家として活動する出雲市駅南町の西菜々重さん(31)が発起し、11月から県内のメンバーを中心に出演者、スタッフら約30人が稽古を重ねてきた。実行委員会を組織して上演する。

制作報告会は松江市北堀町の赤山茶道会館で開き、八雲を演じる、県内在住のシンガーソングライター森山らきあさん(35)らが、舞台の一場面を披露するなどした。

小泉セツ役で、作中歌の作曲も担当したエフエム山陰パーソナリティー影山さゆりさん(30)は「生きていく中で何が一番大切で、日本人としてどう生きるのかを考えるきっかけになればうれしい」と話した。

午後1時半開演で、前売り券は一般2千円（当日2500円）、高校生以下800円（同千円）。

平成 27 年 7 月 21 日付け・山陰中央新報